

# 肥薩おれんじ鉄道沿線地域公共交通活性化・再生総合事業

21～23  
年度

肥薩おれんじ鉄道が経営の安定化を図るためには確実に利用者確保していくことが必要であることから、肥薩おれんじ鉄道の利便性の向上による地域間交流の強化と地域活性化を図るとともに、各種の利用促進を図ることで、肥薩おれんじの利用促進策による経営安定により地域に利便性をもたらす、地域間交流と活性化を図る

## 【肥薩おれんじ鉄道沿線地域公共交通活性化協議会】

熊本県、鹿児島県、八代市、水俣市、芦北町、津奈木町、薩摩川内市、出水市、阿久根市、JR九州、肥薩おれんじ鉄道(株)、国(九州運輸局、オブ)

## 事業の概要(22年度)

### ①スタンプラリー

1,132千円

駅、車内、物産施設等をスタンプを集めて巡る



### ③沿線イベントの情報発信

1,226千円

沿線の観光・イベントのポスター掲示



### ②おれんじ動く美術館

306千円

子どもの写真、絵画等を車内展示



### ④沿線地域観光との連携

5,623千円

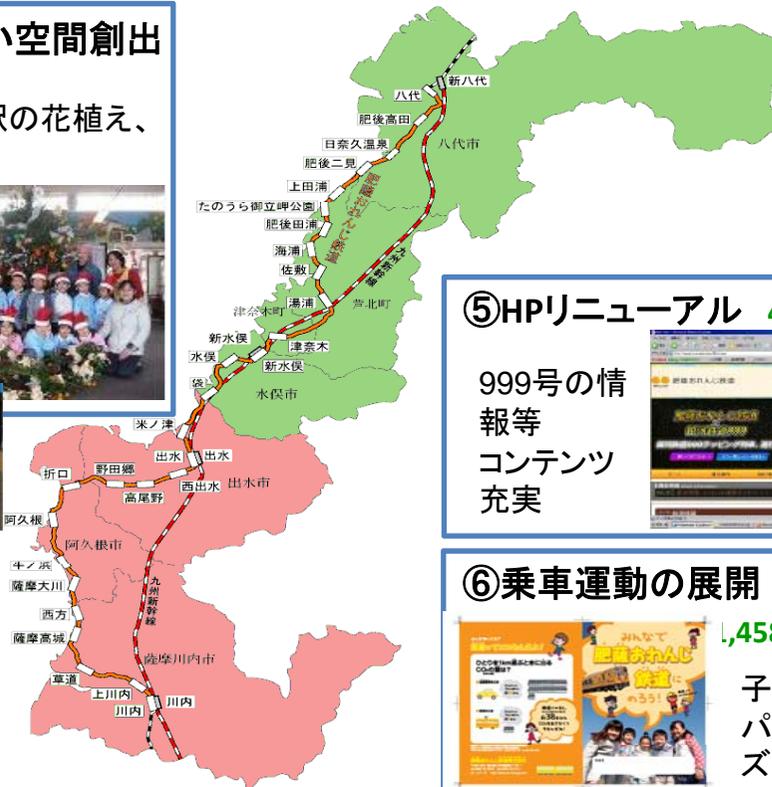
海水浴うちわ、ガイドブックによるPR



### ⑧駅の賑わい空間創出

288千円

沿線の園児と駅の花植え、飾り付け



### ⑤HPリニューアル

477千円

999号の情報等コンテンツ充実



### ⑥乗車運動の展開

4,458千円

子ども向けパンフ、グッズ作成



### ⑦企画イベント列車

4,057千円

銀河鉄道999号列車、クリスマス列車等



## 22年度 導入への プロセス

○21年度に引き続き、再生総合事業の利用促進事業を通じて、肥薩おれんじ鉄道の利用客増加だけでなく、沿線市町の観光PRや沿線市町への交流人口が増えるように意識して事業を組立て、事業実施に当たっては、沿線市町の観光部局や観光協会との協議も実施した。

○おれんじ動く美術館では、沿線地域在住の養護学校高等部3年生の卒業記念作品点として車内に生徒の絵を展示することにより、生徒本人はもとより、保護者等関係者に喜ばれた。ローカル線ならではの取組であり、地域に元気を与えられた。

○駅の賑わい空間創出事業では、沿線の幼稚園や保育園の園児と一緒に駅の緑化を行ったが、地元から、苗の提供や花植えの指導として沿線地域で身障者を雇用している会社を紹介してもらったり、クリスマスツリーの飾り付けを提案いただいたりと、沿線住民とのかわわりを図った。

○銀河鉄道999ラッピング列車を実施したが、メディアに多く取り上げられる等、想定以上の反響があった。

### マイレール意識の高揚

- (1)「おれんじ動く美術館」では、養護学校生徒の作品を展示したところ、大変好評であり、テレビ、新聞等にも取り上げられた。
- (2)沿線地域の幼稚園、保育園児と一緒に駅を賑やかにするため、7月には花植え、12月にはクリスマスツリー飾り付けを行った。プラントには園の名前を入れ愛着を持ってもらうように、さらに、車内には花植え、飾り付けの様子の写真を掲示し、家族、親戚に鉄道にのっていただいた。
- (3)一両車両オーナーでは、作文コンクールを実施して、その優秀作品を募集チラシに掲載する等制度周知も兼ねた取組を実施。22年度比113名133口増の累計414人496口と順調に加入者を伸ばしている。

### 沿線地域観光との連携

- (1)「鉄道スタンプラリー」は、ショートラリーとして2回開催し、手軽に参加できるように工夫を行ったところ、21年度の2倍にあたる656名の応募があった。
- (2)沿線地域住民に向けて沿線市町で実施されるイベント・観光情報のポスターを車内、駅頭に掲示。また、沿線各戸に配布している市長広報紙でもPR。さらに、隣県の沿線交流促進のため、熊本と鹿児島をクロスしてPR
- (3)海水浴キャンペーンうちわや、駅界隈まち歩きガイドブックのリニューアルを行い、新幹線全線開業に合わせた案内人の会、駅弁の紹介、クーポン特典を加えた。

## 22年度 事業の 効果

### 魅力発信

- (1)ホームページのリニューアルでは、興味を惹くよう銀河鉄道999ラッピング列車をトップページに置き、999情報を提供すると共に、車窓からの風景や動画ギャラリー、沿線フォトグラフィーのコンテンツを追加。銀河鉄道999効果も手伝って、アクセス数が138,850件とH21年度の5倍に増加した。

### 潜在利用の掘り起こし

- (1)イベント列車の運行として「うまかもん列車」「水俣スイーツ列車」「銀河鉄道999ラッピング列車」を運行。参加者に変大好評であり、貸切列車が前年比40%増、関連グッズの売り上げも伸びた。

### 更なる事業の効果的な浸透により利用促進を図っていく

- 平成22年度の定期外利用者数は32万2千人であり、前年比94.3%と極めて厳しい状況。全国的にはリーマンショックから抜け出し観光客の動きが戻ってきていたが、南九州では春から夏にかけての口蹄疫、12月には出水で発生した鳥インフルエンザと新燃岳の噴火と南九州への人の動きを抑制する状況が続いた上に、3月には東日本大震災があり、利用者が伸び悩んだ。
- 利用者を伸ばすには、沿線内と沿線外の両方を増やしていく必要があり、23年度は、22年度の実績を踏まえて取り組みの強化、見直しを行う。
- 沿線内利用者を増やすために、22年度は子どもたちをターゲットに駅の緑化事業や子ども向け教育教材の作成等を行ったが、23年度はこの取り組みをさらに強化する。また、熊本、鹿児島両県をクロスして誘客を図るために、隣県での観光物産展によるPRや、隣県から自県へのモニター事業、隣県のメディア関係者の招待事業等、再生総合事業だけでなく両県の利用促進協議会や観光協会と連携しながら実施する。
- 沿線外からの誘客は、肥薩おれんじ鉄道の営業部が中心に国内外へのエージェントへの売込みを行っていることから、旅行商品づくりに役立つパンフレット作成や、外国語版のDVD、パンフレット等営業にも使えるツール作成を支援する。
- 数字は厳しいものであったが、当該事業を実施する上で、県振興局、沿線市町の観光部局及び観光協会との連携強化が図られた。肥薩おれんじ鉄道の取組を通じて、沿線市町の交流人口が増えることが沿線住民のマイレール意識の向上に繋がることから、本事業で沿線地域も活性化するよう更に意識しながら事業を行っていく。

## 次年度 以降